

横尾議員 空き家バンク構想について、町の見解をお伺いします。新年度に入り、また、職員の新体制となつてから、町の移住・定住施策の取組について、どのようなお考えなのでしょう。これまでは、空き家件数の調査報告はありましたが、移住・定住物件としての、つまり空き家バンクとしての件数報告等は聞いた覚えがありません。他町では登録物件掘り起しの手段の一つに、耐震診断調査をセットにして、つまり通常なら自己負担がかかる場所、負担額ゼロを特典にして募集をしています。本町も独自の特典付きで、検討してはいかがでしょうか。また、町長の所信演説の中で集落支援員二名が、空き家調査に関わつて下さっているようですが、成果が気になる場所です。どのような調査方法でご協力いただいているのか、また、この調査に対しての期限や、報告等はどうなっているのか、お伺いします。今の状況では、牟岐町版空き家バンク制度は、まだ先の話になると思われませんが、登録物件が充実してきた場合は今後、紹介・斡旋等が発生します、どのように対応をお考えですか。以上、お答え願います。つぎに海部病院跡地の構想は、その後どうなったのでしょうか。平成26年12月定例議会に「海部病院移転後の施設利用は」との私の質問に、町長は『県と町が必要と思われる施設を提案・要望していくことになるのではないかと、一例として役場をはじめとした、津波に安全でない複合ビル、サテライトオフィスビル、長期療養所、2階まで津波が来る防災上配慮の必要な施設等、また地方創生があり、県と町で協力しながら』との答弁でした。今定例議会、町長所信演説の中で、今回初めて役場の移転先として、町長個人的にはありますが、旧海部病院施設が最善ではなかろうかとの見解が示されました。しかしながら「役場耐震化検討委員会」この委員会名は仮称とのことですが、この新規委員会において、検討をしていくとのことでした。町長、このように考えてよろしいですか。検討委員会の中で最終的に決定された結論が「旧海部病院施設」となればよいと考えているのでしょうか。そうであるならば、発足時期や委員の構成等についての、町長の見解をお伺いします。よろしくお願ひします。

榎富議長 福井町長。

福井町長 まず、空家バンク構想についてですが、牟岐町においては、平成21年3月に、移住交流人口の増加と地域の活性化を図ることを目的に移住交流支援センターを開設しています。当初は、総務課に看板を掲げていましたが、実際の窓口業務は商工会にお願いしてきたところですが、しかしながら、平成26年より、河内の活性化センターに看板を移し対応していますが、対外的には、移住定住センターとしての機能は十分ではないと認識しています。その理由として、お貸しできる空き家物件が極端に少ないことと、専従職員の不在によるものです。

これまで、地域おこし協力隊で空き家対策を行おうと考えましたが、専従的な対応が難しく、現在は、2名の集落支援員に空き家探しをお願いしているところです。今後は、地域おこし協力隊や集落支援員の皆様も含め、専従職員の配置により、移住定住施策、つまり、空き家の募集、斡旋、空き家バンクの設置等を進めて参りたいと考えています。今年度より、徳島県においては、JR徳島駅内のクレメントプラザに、移住定住促進センターを設置し、本県内への移住促進のワンストップ化に取り組んでいます。牟岐町といたしましても、良い人材が移住定住していただける機会を無駄にすることがないように、人的に厳しい状況ですが、できる限りの対応をしてまいりたいと考えています。つぎに、海部病院跡地の活用構想についてですが、現在の海部病院が移転後の跡地活用については、現時点では、県の活用計画は無いと聞いています。したがって、町が活用しなければ空き家になるということですが、町としても財源的な裏付けが無いことから、活用計画の策定に向けた取り組みができない状況にあります。私は、本議会の所信でも申し上げましたように、役場が移転し、空いたスペースに他の便民施設の誘致、あるいは企業家等の入所希望者の募集をするべきであると考えています。いずれにいたしましても、役場の耐震化をどうするのが最優先されますので、所信で申し上げましたように仮称ですが、『役場耐震化検討委員会』での議論、あるいは結論の待ち、早急に検討したいと考えています。なお、委員会のメンバーの構成につきましては、今後、検討することで現時点では決まっていません。

枅富議長 田中産業課長。

田中産業課長 横尾議員のご質問について、町長の答弁の補足という形でお答えさせていただきます。まず、本町の移住・定住施策の取組状況ですが、牟岐町に合った施策を、移住希望者・地域の自治会・空き家所有者・行政等それぞれの目線から検討中です。行政が移住・定住施策を進めていく上においては、移住者と地域の方々とのつながりが必要不可欠なものであると感じていますが、町や自治会で「住む」、「働く」などの個人の生活に触れ、関係性を築くには限界があるのも事実であります。移住者と自治会との間に入れる民間団体に任せるような仕組みづくりが、牟岐町で望まれる最善の移住定住施策ではないかと考えています。つぎに、「耐震診断とのセットで空き家バンクを募集はしないのか」についてですが、現在県内では7つの自治体が空き家バンクの登録をしており、利用希望者へ空き家情報を提供しています。空き家バンクを募集する際には、耐震性も空き家情報に記載すべきであり、所有者に耐震診断を促していく必要性はありますが、個人の建物なので、強制できるものではないと認識しています。また、「空き家バンクの紹介や斡旋について」ですが、全国移住ナビ・四国の右下

移住ナビ・とくしまで住み隊加入など徳島県と連携した広域的な紹介や斡旋方法は可能であると考えています。しかし、現在の空き家バンクの制度においては、行政は空き家所有者と利用希望者との間に情報を提供するだけにとどまっており、所有者と希望者との間で交渉が進んでいくため、地域の皆様の希望することができない場合が予想されるため、慎重に進めてまいりたいと思います。

枅富議長 横尾議員。

横尾議員 今、産業課長の答えなのですが、牟岐町では特典付きで耐震診断付きで手を上げてもらうことはしないということでしょうか。それと、支援員も取り組んでいただいているということを知っているのですが、実際には各自治体であるとか、どういうふうな調査の方法とか、調べ方をしているのか。そのところを詳しくお伺いしたいと思います。それと、町長の役場耐震化検討委員会に対してですが、今後、検討していくと、構成面も検討していくということですが、時期的なものは目途を立てておいた方がいいと思いますので、そういうこともこれから、いつ頃立ち上げていく予定であるというぐらいはお答えいただきたいと思っています。よろしくお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 役場の耐震化検討委員会の設置の時期ですけど、それは早急にということ、できるだけ早く、急ぐ必要がありますので、議会が終わり次第早急にということ。それと、空き家の登録にあたって耐震とセットでというのも、これも論理的にそうすべきであるというのは分かるのですが、実際問題として、非常に難しい課題がたくさんあると思います。空き家を提供する方が先に耐震診断を受けるというのは、今、していなくて貸す段階でできるかどうかということもあるのですが、本来は入居しようかという方がするのが自然かなと私は認識しています。今後、そういうことをセットにするということも含めて、十分空き家自身が少ないものですから、そこまで検討できていないという

のが現状ですので、よろしく申し上げます。

枅富議長 田中産業課長。

田中産業課長 横尾議員の再問について、お答えします。まず耐震診断とセットで進めてはいかないのかという点ですが、まず空き家バンクの制度をどのようにして導入して活用していくかという段階から進めていく必要があるのが1点と、その耐震診断とセットで導入した場合、耐震性の確保というのを前提で促すような感じになると思うのです。その場合、診断の有無ではなく、改修ありきという考えになりますので、空き家バンクに登録できる空き家がほぼなくなってしまうのではないかというふうに考えています。その辺がありますので、ご理解いただきたいと思います。それと、集落支援員の活動状況ですが、4月から2名の集落支援員が来ていただいて、6月から新たに1名の地域おこし協力隊の方が来てくださっています。また、今、空き家の掘り起しという形で回っていただいているのですが、今後、調査と聞き取りが進んでいったら、また、数字を報告させていただきたいと思います。

枅富議長 横尾議員。

横尾議員 耐震診断の特典をとというのは、今の課長の言うとおりに違えられる可能性も高いのですが、掘り起しをするという意味で手を上げていただけませんか、空き家バンクしていただけませんかというところで、他町で取り組んでいる事例を挙げたので、というのは、牟岐町は本当に以前に調査報告をいただいたときは、真っ赤な状態の地図をいただきました。ただ、倉庫がわりになっていたりというふうなもったいない使い方をされているというところで、今度、移住定住に伴う空き家バンク構想をしたときに、その辺りでもっと手を挙げてもらいやすいということ。今の建物自体は、本当に耐震診断をかけても評点が満たないという物件が殆どです。そういう自分の持家がどういう状況で

あるか分かりますよと、これが特典として付けて募集をしてきているということなので、これも募集の仕方によったら、その辺りがマイナスイメージになってもいけないと思いますので、何かその辺りを工夫して牟岐町版で、もっと手を挙げてもらいやすいような空き家の募集をしてもらいたい。また、支援員を含め協力隊員で回っていつてもらっているということなので、もっと協力隊員も入ってくる中であれば、もっと地域を巻き込んで空き家の情報の交換が活発になるような形で、知り合いから声掛けしてくれるだけでも空き家として貸してあげるよというふうな事例もあります。ということなので、これから今後の活躍を期待して、私の質問を終わりたいと思います。